

2018年5月10日

各位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 西尾啓治

2018年3月期 決算短信発表にあたり

わが国経済は、景気は緩やかに回復しており、今後もその継続が期待される一方で、海外経済の不確実性や、金融資本市場を中心とした不安定な状況に対する懸念があります。

食品業界においては、節約の動きが継続してみられる一方で、機能を訴求した商品を求める動きも強まるなど、消費者の価値観が多様化する中で様々な需要が生まれております。

このような経営環境下、当社グループは「グループ中期経営計画2019」に基づき、収益基盤の複数化およびキャッシュフローの最大化に取り組みました。

乳製品事業分野では、チーズなどの主力商品のブランド強化、市乳事業分野では、機能性ヨーグルトなどの高付加価値商品の販売拡大に伴うプロダクトミックスの改善に努めました。本年3月には、ガセリ菌S P株ヨーグルト商品群の更なる販売拡大に向け、小型プラボトルタイプの生産能力を増強、個食タイプは特定保健用食品（トクホ）でリニューアル発売するなどの取組みも実現いたしました。そのほか、ニュートリション事業分野では新市場への展開拡大、飼料・種苗事業分野では、新研究棟を活かした商品開発の推進など、将来の成長に向けた収益基盤の強化を図りました。

以上の結果、連結売上高は5,961億円（前期比101.4%）、連結営業利益は193億円（前期比103.3%）、連結経常利益は209億円（前期比103.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益は133億円（前期比103.1%）と増収増益となり、中期経営計画の初年度として、順調なスタートを切りました。

2019年3月期は、原料乳価格や物流コスト、労務費などが上昇傾向にあるなど、経営環境に様々な変化がみられます。

チーズ・ヨーグルトの販売拡大やプロダクトミックスの改善など、これまでの取組み強化に加え、価格改定・容量変更を実施するなど、環境変化に適切に対応してまいります。今後も、これまでの取組みの成果、投資効果を一段と追求していくことで中期経営計画の目標を達成してまいります。

この度は、連結子会社である雪印種苗株式会社での種苗法における違反行為等に関しまして、大変ご迷惑とご心配をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げます。

今後、再発防止とともに、当社グループ全体のコンプライアンス強化に改めて取り組んでまいります。

以上